

「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」開催概要

- 1 開催日時 令和3年12月2日（木）午後2時30分から午後6時00分
- 2 開催場所 議会棟 404・405号会議室
- 3 出席者
 - 県下8高校の1～2年の生徒17名、校長、教諭等の学校関係者
参加生徒・・・須坂、篠ノ井、上田、軽井沢、諏訪二葉、飯田風越、松本県ヶ丘、松本蟻ヶ崎
 - 宮本 衡司議長、清水 純子副議長
 - 広報委員
宮下 克彦議員、寺沢 功希議員、清水 正康議員、和田 明子議員
 - 会派選出議員
大井 岳夫議員、山田 英喜議員、高島 陽子議員、花岡 賢一議員、川上 信彦議員、高村 京子議員
- 4 開催内容
議会傍聴、オリエンテーション（県政報告・意見交換）、プレゼンテーション、グループディスカッション
- 5 プレゼンテーション及びグループディスカッションテーマ
 - 高校生のプレゼンテーション
 - ①「文理選択は必要なのか？」 ②「高校生の身だしなみ」
 - ③「コロナ禍の文化祭」 ④「コロナ禍での国際交流をより良くする方法を考えよう」
 - ⑤「自分の学校をより良くするために自分の高校を見つめ直そう！」
 - ⑥「学校での個性・多様性の出し方、受け入れ方」
 - グループディスカッションテーマ
 - ①～⑥と県議会から提案したテーマ「学校のICT活用に望むこと」、「政治参加への意識」、「県議会の広報について」
- 6 参加者 50名（議員12名、生徒17名、傍聴者21名（学校関係者含））



○オリエンテーション（県政報告・意見交換）

（司会：宮下議員）

皆さん、お待たせしております。長野県議会へようこそいらっしゃいました。ありがとうございます。

おおむね4時から始まる予定ですので、その前に20分ほど時間がありますので、口が動きやすいように、ちょっとオリエンテーションしますので、よろしくお願いいたします。

私は、長野県議会議員の宮下克彦と申します。諏訪市の出身でございます。

（和田議員）

皆さん、どうもこんにちは。私は県議会議員の和田明子と言います。長野市・上水内郡選出です。どうぞよろしくお願いいたします。

（清水議員）

こんにちは。僕は上伊那郡宮田村という地区の出身です。選挙区は上伊那郡区ということになります、清水正康です。よろしくお願いいたします。

（宮下議員）

よろしくお願いいたします。

今日は17人の皆さんが来ていただいたということで、ありがとうございます。皆さん、まだ緊張しているかと思しますので、本会議場を見ていただいて、どうでしたか。本会議の様子を見ていただいたんですけども、久しぶりに傍聴席がいっぱいになりまして、議員の皆さんも大分うれしかったかなと思います。

本会議場は、いつも小学生が議員の説明を受けて、県庁見学のとに見てもらうのですが、議長さんが進行して、ああいう形で県の事業の議論をしているわけです。皆さん、傍聴席というところで高いところだったと思うんですけども、普通説明するときには議長さんの席が一番高いということを説明しているんですけども、本当は県民の皆さんの傍聴する、皆さんが座った傍聴席が一番高くて、議員や県民の皆さんと一緒に話合いをしている、そんな感じでございます。

ぜひ皆さんの肩の力が柔らかくなりますように話しますので、よろしくお願いいたします。

県議会には広報委員会という組織がありまして、私たち3人を含めて、副議長さんが委員長ということで広報活動を進めています。5人の委員で構成されていまして、どのような方法で議会の活動について県民の皆さんに伝えていくか、そこを話し合っています。

お手元に広報紙ということで、新聞の折り込みにする広報紙が入っていると思いますけれども、ちょっと見てもらえますか。そんな形で、毎回議会のあるごとに、6月、9月、今回の11月、2月ということで定例の議会があるのですけれども、そのたびにまとめて広報紙を新聞折り込みして県民の皆さんに伝えたりしているところです。

そのほかに、事前にご覧いただいていると思いますけれども、広報番組、それをケーブルテレビ、インターネットで流しています。それから、最近SNSということで、若い皆さんにも伝わるようにツイッター、それから、ホームページということでタイムリーなお知らせを行う様々な手段でお知らせしています。ぜひツイッターの登録をお願いしまして、県議会が身近になるようにしてもらいたいと思います。

それでは、お手元の広報152号を見ていただきまして、最近の広報の内容を見ていただきたいと思いますが、それは前回の9月の定例会、9月議会の様子を概要ということでまとめてあるものです。本会議で行われた主な審議の内容を掲載しています。本会議というのは、今日の議場で行われている、ああいうやり取りなんですけれども、主に新型コロナの対策、それから、7月、8月にあった大雨の災害からの復旧等の議論が行われて、議員からは質問として、新型コロナの6波への備えが重要なので、皆さん方も含めた若者へのワクチン接種の推進、医療検査体制の確保などについて議論が行われたということで紹介してあります。

それから、裏面を見ていただけますか。豪雨災害からの復旧の様子、森林整備の災害を未然に防ぐという、そういった議論があったところです。

また、災害に関しては、熱海市の土石流の災害等で問題になった盛土についての安全性に関する法整備を求める意見書、これを県議会としてまとめまして国へ提出して対応を求めています。これらについても広報番組で同様に皆様に伝えています。

それでは、ただいま一部を紹介した広報紙、皆さんが事前にご覧になっていた広報番組、それから、ホームページやツイッターについて、皆さん、何かご感想があればご意見をいただきたいと思います。

どうですか。この広報紙を見て、よく伝わってくるか。

(清水議員)

第一印象でいいよ。

(宮下議員)

なかなか急に言われても……、私たち広報委員と一緒に議論して、どうやったらそのときの議会の様子が伝わるかなというようなことでまとめているんですけれども、もう少し写真を増

やしたほうがいいとか、何か意見があれば。

(高校生 A)

これは、でも分かりやすいほうだと自分は思っています。

(宮下議員)

ありがとうございます。

ほかにご意見があったら、こんなところは、というのはありますか。

広報番組やツイッターなんかでも議会を紹介していますので、それについての意見をいただければありがたいんですが、より大勢の人に見てもらうためにどうしたらいいのか、効果的に伝えるためには、特に高校生の皆さんに伝えるためにはSNSを使って、紙よりもSNSで伝えたほうがいいかなという意見も広報委員の中では大分出ているんですけども、一般論、どうですか。

(高校生 B)

こういう議会のSNSをわざわざ調べてみるということはしないので、私はクラスの会で、紙媒体で配られたほうが目にします。

(宮下議員)

そうですね、わざわざ長野県議会のホームページを見るということもないと思うので、紙媒体、紙の広報紙というのは新聞に折り込んでいるんですけども、それも広告と一緒になので、なかなか届かない場合もあるかと思います。今日を機会に、ツイッターという手段を使っているのでぜひ登録していただいて、長野県議会、結構今年は頑張ってツイッターで発信する機会が相当多くなっていますので、その辺を見ていただければありがたいかなと思います。

ほかにも、皆さん、何かありますか。

それでは、4時から、議長さん、広報委員長の副議長さんとか来ますので、ぜひ肩の力を抜いて、皆さん、自由に意見交換ができるようによろしくお願いいたしますと思います。

それでは、今回の高校生との意見交換会、全体としますと4時から開会させていただきます、高校生によるプレゼンテーション、それから、意見交換会を4時半から大体50分、5時50分までやりまして、最後のほうでグループごとの発表ということで、議員のそれぞれの感想とかも含めて発表がありまして、議長の所感とかもありまして、最後に終了するのが6時ということで、ちょっと長時間になりますけれども、ぜひ自由に意見交換ができるようにお願いした

いと思います。

それから、各グループの司会は高校生の皆さんにやってもらいますので、その辺楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

(清水議員)

全然緊張が取れないと思いますけれども、さっき宮下さんが質問しているのは見えましたが。では、宮下さんにみんなで見られた感想を聞きたいと思いますので、どうぞ。

(宮下議員)

議場であれだけいっぱいになって傍聴していただけるというのは久しぶりなものですから、コロナで2年ほど、ほとんど1人か2人ということで傍聴してもらっていて、非常にうれしかったです。その前はあんな感じでやっていたこともあるんですけども、今日は本当に、特に若い皆さんが見てくれているということで、私も最後に言いましたけれども、ぜひ若い皆さんのご意見も取り入れて、森林のこととか、それから、地球温暖化防止については本当に若い皆さんの意見が大事ですので、その辺を取り込んで、ぜひ来年の予算編成につなげてくださいねということで知事に言いましたので、今日はあれだけ皆さんが来てくれたので伝わったかなということで非常にうれしく思っています。本当にありがとうございました。

○開会

(司会：清水副議長)

皆さん、こんにちは。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会を始めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は司会進行を務めさせていただきます、長野県議会副議長で広報委員会の委員長を務めさせていただきます清水純子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(清水副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、宮本衡司長野県議会議長から挨拶を申し上げます。

(宮本議長)

ご紹介いただきました長野県議会議長の宮本衛司であります。

冒頭、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、『こんにちは県議会です』の開催に当たりまして、県下各地より大勢の高校生の皆さんにご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、長野県高等学校長会の皆様には多大なるご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスの影響により、大勢の人々が集まることが困難になってしまっていて、昨年度のこの取組はオンラインとなってしまいました。以降の様々な努力が実を結びまして、感染も落ち着いたため、本日は本会議の傍聴をいただくことができ、このように実際に会って意見交換ができるということで大変うれしく思っているところであります。

皆さんは本会議を傍聴してどのような感想をお持ちでしょうか。地域の課題や県政への提言など、皆さんの生活に関わる大切なことが多く議論されているということがご理解いただけたのではないかと考えております。

本会議では知事への質問以外の議論もあることを御存じでしょうか。この前の定例会でも議員提案による条例改正がありましたので紹介します。

お手元にある広報紙にも書かれていますが、歯科保健推進条例の改正であります。もともと10年前に議員提案により制定された条例ですが、医療が進展する中、健康長寿のためには歯の健康、そして口の中の健康を保つことが重要と認識されてきましたので、この取組を推進するための改正案が議員から提案をされ、本会議の議論を経て全会一致で可決となりました。

議員提案の条例につきましては、昨年制定されました2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すゼロカーボン条例がありましたし、また、現在議会の研究会におきまして少子化対策を推進する条例の制定を目指して目下検討中であります。このように議員からの提案によって県の取組が決定するという事例のご紹介を申し上げます。

さて、本日は皆さんから6つのテーマについて意見発表をお聞きしたり意見交換を行う、大変貴重な、そして重要な機会であります。我々議員は皆とても楽しみに本日を迎えました。皆さんには本日の経験を契機に、ぜひとも県議会や県政への関心を一層深めていただきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○長野県高等学校長会長あいさつ

(清水副議長)

続きまして、同じく主催者であります長野県高等学校校長会の会長の松本深志高校校長の塩

野英雄会長よりご挨拶をお願いいたします。

(塩野会長)

皆さん、こんにちは。

ご紹介いただきました県の高等学校長会会長を務めます松本深志高校校長の塩野英雄と申します。よろしくお願いいたします。

オンラインになるのか、先ほど宮本議長のお話にもありましたとおりで対面のできるのか、どきどきしながらこの日を迎え、こういった形で、対面で会ができること、本当にうれしく思います。去年は先ほどのお話にもありましたとおりで、オンラインでの開催を、それでも何とかやることができました。

校長会にはいろいろな研究をする委員会がありまして、生徒の主体性を育む委員会、平成28年に始まりました比較的新しい研究をする委員会であります。もう5年ほど、こういった形で長野県の子供たちの主体性を育むには何ができるか。夏の合宿であったりとか、こうした県議会議員との意見交換とか様々な企画を考えてきました。

今年は合宿ができずに、1回だけ実行委員が集まって対面でいろいろな協議をする、そんな形をとったわけですが、9月の終わりごろになりますが、全県で70名を超える高校生がオンラインで集まりまして、先ほどお話にもあったとおりで、今日の6つのテーマに沿って100分以上の熟議が行われ、本当に深い議論が県内の高校生同士で行われて、私も見ている感激をした、そんなものであります。今日来ている高校生はその実行委員として、こんな議論をしたということ最初集まった70名の代表の人たちが今日集まっています、議員の皆様と意見交換させていただき、そんな段取りになっているところであります。

これからの時代を担っていく若い子たちがこういう形で県議会議員と意見交換の時間ができる、非常に幸せな機会かと思えます。ここに至るまでの県の皆様のご準備であったり、とりわけ宮本議長をはじめとする県議会議員の皆様にご参加いただいていること、本当にありがたい限りであります。忌憚のない意見交換ができればと思っています。

若者の投票率がなかなか低いというふうに言われていて、19歳で、がくんと下がるような、そんな状況ではありますけれども、私も現場で見ている限りでいうと、一方で高校生は様々な意見を持っていて、いろいろな意見表明をしている。いろいろなものを持っていると感じますので、今日も活発な議論が行われるのではないかと期待しているところであります。ぜひ貴重な機会を使っていただいて、高校生の皆さんも遠慮なく、それこそ先ほどの話、肩の力を抜いていろいろな意見交換をしていただければと思います。

本日はよろしくお願いいたします。

○高校生によるプレゼンテーション

(清水副議長)

それでは、高校生の皆さんのプレゼンテーションを始めてまいります。

まず、1番目のテーマが文理選択は必要なのか?です。

それでは、1班の発表者さん、発表をお願いいたします。

(1班 発表者)

私たちグループ1では、文理選択は必要なのか?というテーマで話し合いをしています。このテーマにした理由は、文系、理系でカリキュラムが定型化されていて、もっと自由に学びたいという思いから文理選択は必要ないと感じたからです。

交流会での議論の中では、実行委員がなぜこのテーマにしたのかを発表し、その後に参加者の方に自分の文理選択に対する思いを一人ずつ発表してもらいました。その後、一人一人、自分が文理選択に賛成派なのか、反対派なのか、立場を明確にしてもらって、理由を発表してもらいました。途中で、校長先生方からお話をお聞きして、もう一度意見を発表しました。最終的に自分の立場とその理由を発表しました。

議論の中で出た意見です。

賛成派の意見は、文理選択をなくしても、文系の大学に行くには文系の勉強、理系の大学に行くには理系の勉強をする必要がある。得意だから、好きだからではなく、大学受験に必要な教科を勉強するべきという意見がありました。

反対派の意見は、文理選択をしなければならないということ自体が古い考えなのではないか。文理選択をするまでの期間が短過ぎて、ちゃんと考えて決めることができない。1年生の時点で一度文理を決めてしまうと将来のことが決まってしまう。もっと自由に自分が学びたい教科を学びたい。本気で将来を考えているのなら、将来に必要な教科は文理選択関係なく、自分で選ぶはずという意見が出ました。

校長先生からお話をお聞きした内容です。

勉強は大学に行くためにしているのではない。社会人として生きていくため、将来のことを高校生活半年で決めてしまうのはどうなのか。文系から理系はできないが、理系から文系なら変えることができるため、迷っている生徒はとりあえず理系へ。まず、文系と理系に分ける意味があるのか。文理選択は受験する上で仕方がない。生徒の自由を制約してしまうのも仕方がない。国の学習指導要領に決まりがある。受験に必要と無駄ということは違う。文系にも理系の考え方、理系にも文系の考え方が必要なときがあるといった様々な意見をお聞きすることができました。

交流会を通しての感想は、ふだんなかなか話すことのできない他校の生徒さんや校長先生方のお話をお聞きすることができて、とても貴重なよい機会になりました。また、文理選択に対する様々な意見を聞くことができて、自分の考えを深めることができました。

ここで、県議会の方々に提案です。

私たちが提案することは選択できる科目を増やすこと、一校を実験的に文理選択をなくしてみることに、文系を選択しても、理系の科目を選択できるようにすること、新しく文理選択をしない科というのをつくること、文理選択の基盤だけつくっていただき、あとは生徒が自分で選べるようにすることです。

ご清聴、ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

続いて、2番目のテーマは高校生の身だしなみです。

それでは、発表をお願いいたします。

(2班 発表者)

皆さん、こんにちは。今日は大変緊張していて・・・温かく見守っていただきたいと思います。

私たちグループ2では、テーマは高校生の身だしなみということについて議論をさせていただきました。

どういったテーマなのか、次に説明したいと思います。

テーマの趣旨として、髪染め、化粧など大人では当たり前のことが高校生が禁止されている今、高校生の自由を訴えるには、また、大人が持つ高校生の身だしなみに関する意見紹介になるんですけども、やはり高校というものは身だしなみについて結構気にするという時期にあると思います。そういった中、校則がある学校も、ない学校もいろいろあると思うんですけども、そういった中での高校生の身だしなみ、どういったものであるかといったことについて議論したいなと思い、このテーマにさせていただきました。

当日の議論の内容についてですけども、議題1として、高校生の身だしなみについて、賛成、反対ということをもっと最初にさせていただきました。

私はアルファグループを担当させていただいたんですけども、賛成として、禁止の理由が分からない、染めるのは自己責任。また、反対として、学業がおろそかになる。また、ベータグループについては、他人に迷惑をかけなければ表現の一部として結構大事なのではないか、一人一人の個性を出せる大事なツール、また、化粧は大人の常識である。最近ではやはり面接

で男性の方も化粧をするようになり、結構マナーとしても必要になってきている印象があります。

そして議題2で、高校生の身だしなみのメリット・デメリットについて議論しました。

アルファグループでは、メリットとして、明るいイメージがある。髪染めは趣味に近く、気持ちに上に向く。自分の個性が出せる。反対にデメリットとして、目立つ、やはり今の地域からの目線ではあまりよろしくないイメージがあると思います。そのような意識がある中で、わざわざ自分を主張してまでする必要はあるのか。また、金銭面、やはりお金がかかるものですので、家庭的に窮屈なことになるかもしれない。また、誤解が生じる、まじめさに欠ける、悪いイメージが年配の方にあるかも。

ベータグループでは、メリットとして自己表現ができる、社会人にはできない派手なものができる。自分磨き、非言語的なアピールができる。やはりどんな国でもファッションというのは言語がなくてもいろいろ共感できるものがあると思います。デメリットとしては、金銭負担が大きい。所属する社会の集団のイメージを悪くしかねない。やはりその人の行動で学校全体に悪影響を及ぼすこともあるので、そういったことを考えないといけない。また様々な事情でできない人に対する攻撃が生まれる、こういったものが挙げられました。

校長先生もお話くださるということだったので、意見を聞いてみました。

そしたら、アルファグループでは、個性、平等性は尊重すべきだが、TPOも考えるべき。校則は生徒を守るためのもの、各校で目指す生徒像に合わせて、教師だけでなく、生徒や保護者にも参加してもらいべき。また、県内で校則のある学校とない学校が混在している。また、学校の制服にあこがれて入学を希望する生徒もいる。かつての校内暴力の時代は先生方が校則を用いて統率してきた。私はアルファグループのほうで司会進行を務めさせていただいたんですけども、やはり校長先生から、校則は生徒を守るためのもの、生徒の未来を確かなものにするため、そういったものが強く感じられ、すごく共感できるものがありました。

また、ベータグループでは、他県では服装検査をしていたが、基準が分からないものもあった。全国的に見て長野県の公立高校の服装は自由である。そこに対してどう線引きするのが大切となる。また、自由には責任がつきもので、周りの反応を受けるのは絶対、それを受け入れる心の広さとどう信念を貫くのかも結構重要になる。校則のあいまいさは自分なりの理解ができる裏返しである、そういうことが挙げられました。

議題3として、校則やイメージをどうやって変えていくのか、そういった問題について議論したのですが、私、アルファグループでは、学校に対して今まで変わらなかった校則はなかなか変えられない。実際に参加していただいた生徒の中に、生徒会で靴下の色を変えようとしたという方がいらっしまったのですが、やはり先生方に止められて、議論したまま

終わってしまった。また、校則を変えたら反対の声が上がる理由をしっかりと考えて、校則改定を提案すべき。また、社会に対して地域目から変えていくのが有効なのではないか。

また、ベータグループについては、学校に対して、実際に中学生のときに変化したことがあるという、アルファグループの反対のことが起きていたことがありました。また、社会に対しては髪の色がもともと大勢とは違う人もいます。私自身茶髪なんですけれども、グローバル化の中、赤髪、白髪もいらっしゃるということなので、そういったものに対してイメージを変えていけるよう、そういったことをもっと主張すべきなのではないか。また、外見のみで判断すべきではない、そういったものがありました。

全体のまとめ、感想としては、長野県の校則は自由度が高い。身だしなみについての周囲への配慮など責任が伴うことを強く感じた。これからの学校生活において生かしていきたい。校則イコール悪というイメージだけでなく、校則は自分たちを守るためにあるもの、という一面を感じた。校長先生方に話を聞いて納得ができた。自分も身だしなみに関わる規則について考える場所を大切にしていきたい。校長先生方のお話を通して、自分たちの生活しやすい、表現しやすい環境に少しでもしていきたい。

私自身、本当に校長先生のお話が一番印象に残っています。やはりいろいろな意見に触れることが大切だと分かったので、今日の議論でも話していけたらなと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

続いて、3番目のテーマはコロナ禍の文化祭です。

それでは、発表をお願いいたします。

(3班 発表者)

私は、今グループ2の発表を聞いて、今日ここに来るときにどんな格好をしようか、夜すごく迷ったことを思い出しました。

では、グループ3の発表に移ります。

グループ3では、コロナ禍の文化祭というテーマについて話し合いを行いました。

昨年からは新型コロナウイルスの影響によって、学校行事の中止や規模縮小が余儀なくされました。私たち実行委員は、昨年は中学3年生、そして高校1年生の年代の学年で、修学旅行のほかに、高校生活のスタートに大きな影響があったと思います。

そんな私たちだからこそ、このような状況での高校文化祭はどうあるべきか、そして制限が

課される中で、元の楽しさを取り戻すにはどうすればいいのか。そんな文化祭に関する共通の課題意識を持ってこの交流会に臨みました。

まず、コロナ禍の文化祭の課題とその解決方法について発表していきたいと思います。

まず、Z o o mで行った場合の改善点として、多くの学校が教室へ発表を配信したのですが、接続が悪く、映像や音がかくかくしたり途切れたりするというような課題がありました。その解決方法としては、本番までの接続確認やリハーサルを重ねること、そして発表は事前に録画しておいて、その録画を流すといった案が出ました。

続いて、他学年との交流がないという課題も挙げられました。そこでの解決方法として、参加型のリモート企画を企画するのはどうかという案が出ました。Z o o mのブレイクアウトルームを利用して、学年や男女関係なく、興味のある内容を気軽に参加できるような形で企画する提案がありました。

そして体育館に生徒が集まる場合の課題ですが、体育館で話してしまう人だったり、暑さでマスクを外してしまう人が多くいたという課題があります。そこで、コロナが出てしまった場合の個人特定のために、一人一人に個人番号を振ったり、人数制限をかける、そして抽選会を行うという案も出ました。

文化祭なのに、大きな声を出さないことに盛り上がり欠けるといった課題も出ました。そこでペンライトやサイリウム、そしてスマホのライトがつくと思うんですけども、そのライトで舞台を照らすという案も出ました。そして個人的にこれはおもしろくてやってみたいと思うんですけども、事前に録音した自分の声を流して、実際には声を出さずに、舞台を盛り上げるというような案も出ました。

そして一番コロナ禍で影響を受けた利点なんですけれども、食べ物の販売がなくなった。そして自分たちで食べ物の販売ができなくなった。運動部の活躍の場が減ったということが中々出ました。そこで今年も行っていた学校が多いようなんですが、地域のお店に協力していただき、販売をしていただくということです。そこでは、事前予約、そして学年ごとの購入、食事、そして食事のごみ専用のごみ箱を設置して感染を防ぐというような方法が出ました。そして地域のお店に協力していただくというのは、コロナ禍で影響を受けた飲食店も多いかと思うので、そのお店のPRにつながるというような考えもありました。

続いて、提案です。

教室で何かをしたいという声があったので、このようなスクリーンを購入して、体育館の発表だったり、そういうものを中継する。そしてクイズやイベントに関する投票を、テレビ番組のDボタン機能というものを参考につくっていただければいいのではないかという案が出ました。

そしてコロナ禍、この状態で文化祭を行ったことでの気づきというものもありました。

例年、模擬店に人が集まってしまっていたのですが、その人たちがコロナの影響で模擬店がなくなったため、そのようなことがなくなって、文化祭の一番の趣旨というものは文化部の発表だったり展示であるということを確認できたというような意見がありました。これは私はすごくコロナ禍で文化祭を行って一番得た大きなものなのではないかと思っていて、高校の文化祭というのは模擬店が主になっている気が私は中学生のころからしていたので、この気づきというのは本当に大きなものだったのではないかと思います。

そして交流会を終えて思ったことです。

同じ課題意識を持った仲間との活発な話し合いによって、コロナウイルスの影響で制限がある中での高校文化祭の在り方について考えを共有できたことは本当に大きなことだったと思います。最近ではオミクロン株というものも日本で確認されてきていて、また感染拡大が懸念されているので、今回の交流会で得たものを来年、再来年、そしてそのまた次の文化祭にも生かしていければいいなと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

続いて、4番目のテーマ、コロナ禍での国際交流をよりよくする方法を考えよう！です。

それではお願いします。

(4班 発表者)

皆さん、こんにちは。

さっき服の話題が出たのですけれども、こんなフォーマルなところに、パーカーで来てしまって心苦しいです。

僕たちの班のテーマは、コロナ禍での国際交流をよりよくする方法を考えよう！というものです。

テーマ設定の経緯なんですけれども、僕たちグループ4の共有点として、海外に興味があるということがありました。なので、異文化交流とか、あとは外国の方々と交流してみたいという気持ちが強くありました。そこでグループ内で異文化交流について話し合ってみました。

そこで出た意見がオンラインの交流と対面の交流、それぞれ利点と欠点が存在するということです。この利点、欠点を理解した上で、これから2つの交流の仕方をどういうふうに使っていけばいいか。今回の交流会ではこの点について高校生の皆さんと話し合っていこうということになりました。

当日の流れはこのような感じになっています。

時間短縮のために読み上げは省略するのですが、この討議というところで、実際に信州大学総合理工学研究博士課程3年の留学生の方にも加わっていただいております。

まず、一つ目の話題として話したのは、異文化交流へのコロナウイルスの影響についてです。各校の文化交流がコロナウイルスでどのように変わったかについて、一人一人からお話を聞きました。そこで出た意見としては、オンラインに変わって五感を使った交流ができなくなったとか、例年台湾に行って交流していたのですけれども、それができなくなったなどがありました。やはりどの学校でも少なからず交流がしづらくなっているという現状が明らかになりました。

次に、オンライン交流のメリット・デメリットについて話し合いました。

メリットとして代表的なものは、やはり会場や移動が要らなくて、手軽にできるという点が一番多く挙げられました。また、デメリットとしては、時差の関係で時間の兼ね合いが難しいことだったり、映像や音声飛び飛びになって交流しにくい、質のいいコンピューターを用意しないとイケないという点が挙げられました。

これを踏まえた上で、次はオンライン交流をどのように生かせるかについて話し合いました。話し合いで出た意見としては、気軽な交流にオンラインは最適なのではないかという意見が最も多く出されました。また、日常のビデオなどを撮って、生活の中の各国の文化などを共有する、いわゆるVlog（ブイログ）というものを共有することもできるのではないかなと考えました。

少し休憩を挟んで、その後は対面交流のメリット・デメリットについて話し合いました。

ここで出た意見としては、やはり現地に行って五感で感じるというほうがオンライン交流よりもはるかに学びになったりとか、ダイレクトな空気感を学べたり、あと言語の差によって会話がうまくできなくても、手話やジェスチャーなどを使って直接的な交流ができることが挙げられました。ただ、デメリットとして、やはり現地に集まるのにお金や時間がかかるとか、あと今で言うとコロナウイルスなどがあって、まずそもそもの対面交流がしづらいという点が挙げられました。

これを踏まえて、次は対面での交流をどのように生かせるかについて話し合いました。ここで出た意見としては、在日外国人の方々とは対面で交流できるので、そういう方々との交流においてはこれが最適なのではないかなと思いました。

あとオンラインと対面交流の同時利用の話になるんですけども、オンラインを重ねてから対面交流に移行するという形にすると、打ち解けてから対面交流に移行することができるので、より質の高い交流ができるのではないかなと思いました。

まとめと感想としては、オンラインの国際交流は、時差や通信環境などの弊害がありますが、

コロナ禍の一手段としては非常に有用なものだと感じました。議論の場では高校生や大学生も交えて活発な議論が行われて、若い世代の視点から自分の経験なども交えつつ意見が出されました。

あとここに書いてはいないのですけれども、感じたこととして、国際交流に興味のある学生が少ないと感じました。実際、今回の交流会ではこのグループに参加して下さった高校生が2人しかいなくて、もう少し外国に興味を持ってほしいなと思いました。

そこで、議員の皆さんに要望です。オンラインによる国際交流、学校規模での国際交流というのをもっと増やしてほしいです。僕の通っている須坂高校では、1年生時に、須坂アカデミックチャレンジという、ハーバード大学の生徒の皆さんとか、東京大学に留学している外国人留学生の方々をお招きして、英語で交流したりとか、ワークショップを行うというイベントがあるのですけれども、そういうものを各校、もっと長野県全体でもやってほしいと思いました。若いうちにネイティブな英語と触れ合うというのは国際社会の一員としていく上でも、とても大事なことだと思うので、これをどうにか考えていただけたらありがたいです。

以上です。

(清水副議長)

ありがとうございました。

続いて、5番目のテーマは、自分の学校をより良くするための自分の高校を見つめ直そう！です。

それでは、よろしく願いいたします。

(5班 発表者)

皆さん、こんにちは。

とても緊張しているので、温かく見ていただけたらいいなと思います。

5グループは、自分の学校をより良くするために自分の高校を見つめ直そう！というテーマでオンライン交流会をしました。

このテーマにした理由は、高校生同士の交流ということで、自分の高校という身近なものをテーマにすることで活発な意見が出しやすいかなと思ったからです。

このテーマでオンライン交流会を行うときは、いろいろな高校のことを知った上で、自分の高校を好きになってもらう。ほかの高校のいいところを取り入れる。生徒会に入ったときに今回の話合いの内容を反映してもらう。話合いをする中で親睦を深める。自分の高校に対して意見、問題意識を持つという目的でやりました。

交流会での議論の流れは、実行委員挨拶、アイスブレイク説明、アイスブレイク、討議の進め方説明、討議、まとめでした。

スライドにはないのですが、アイスブレイクも私たちの班はとても力を入れて、ほかの高校の生徒さんたちとは初対面だったのですけれども、学校紹介というものをして、最初に討議を進める前に中を深められたかなと思います。

討議の流れは、各高校が自分の高校のいいところ、改善したいところを発表、改善したいところについてどうすればいいのかを議論、提案、類題をピックアップして掘り下げる、まとめです。

各高校のいいところ、改善点はスライドのとおりです。各高校、たくさんの高校があったのですが、高校同士での例えばコロナ禍の文化祭というテーマだったら、こっちの高校では一般公開ができたのに、こっちの高校では一般公開はできなくて、すごい制限が厳しかったなどの高校同士の差も結構あったかなと思います。

議論の中で出た意見、提案のピックアップです。

学校内が仲よくなるような取組はどんなことをしているのか、出してもらったたくさんの高校からの意見なんですけれども、文化祭で全校生徒にナンバーが配られる。同じナンバーである人を探す。結構つながれる。体育祭で縦割りチーム編成を行った。競歩大会、クラスマッチ、体育祭で交流を深めている。探偵大会などなど。ハロウィン仮装大会が駄目出しを食らってできなくなった。もう一つの意見提案が、校則を破る校風についてどう思うか。さっき校則について発表していた班があったと思うんですけれども、こちらでも意見が出ました。誰かが破っているなら私もやっていいみたいなスタンス、身だしなみを取り締まっている組織が機能していない。ある程度は厳しくやらないと駄目な気がする。校則の認知度が低い、知ってもらってからつくりたいなどの意見が出ました。

交流会を通しての感想で、ふだん交流することができない高校同士で話し合うことで新しい発見だったり、聞くことができている経験だった。高校生が主体で話し合うことができた。各高校の校風や特色を知れて楽しかった。今後の活動に生かしていけたらいいと思うという感想をいただきました。

最後に、私たちのチームは提案ということがなかったのですけれども、今の発表を聞いて、各長野県内でもたくさんの高校の校風や特色があったのですけれども、その中で生まれる問題や差だったり、いろいろなことがオンライン交流会を通して分かったので、今回の話合いでもそのことについて話し合っていけたらいいなと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

それでは、最後です。6番目のテーマ、学校での個性・多様性の出し方、受け入れ方です。

それでは、発表をお願いいたします。

(6班 発表者)

こんにちは。

先ほどまでリラックスしていたのですけれども、ここに立ったら、すごい人がいっぱいいて、どきどきなんですけれども、頑張ります。

私たちのチームでは、学校での個性・多様性の出し方、受け入れ方というテーマで話し合いをしました。そもそも個性・多様性を尊重するという社会の流れにはなってきたと思うんですが、でも抽象的な概念で難しいというようなことが挙げられました。なので、私たちのチームでは、自分たちに身近な学校というところに絞って考えていこうということになりました。

まず、当日は個性について考えるということで、実行委員のほうから、参加者の方に「あなたの個性とは何ですか」という質問をしました。その質問をしたところ、結構多くの方が自分の長所と短所を挙げていらっしゃいました。でも、個性って長所、短所だけを指すのかなという疑問があって、話し合いを進めていく中で、個性というのは長所、短所だけを指すものではなくて、考え方とか、文化であったりとか、そういうものを指すことなのではないかという意見が上がりました。ですが、その様々な意見があった中でも、個性の捉え方は様々で、個性を出していかないと社会は動かない、個性を出すことで人生が楽しくなるといった意見は共通していました。

次に、具体的な事例について検討していきました。

この事例では、ここでは学校の校則と自分の個性・多様性の表し方というところの違いについてですが、そのような具体例があって、校則ではピアスをつけて登校した方が先生から校則を理由に指導を受けて、でもピアスは個性の一部であるというふうに主張したのですけれども、この場合はどうなのかということについて考えました。出た意見として、規則は守るべきという意見が出たのですが、その中でも度の過ぎた規則は変えるべき、なぜ身なりに関する校則があるのか疑問という意見がありました。また、入学した時点でその校則に同意しているとするため、校則は守るべきという意見もありました。また、海外の文化を持った人は許される面があるということから、日本人と外国の方で扱いに差があることに理解できないという意見もありました。

2つ目の事例として、私たち高校生で結構文化祭とか体育祭のときにクラスTシャツを作る

と思うんですが、そのクラスTシャツというのは別に校則とかで着なさいと決められているわけではなくて、慣習的に着ているものだと思うんです。でも、そのクラスTシャツの着用を拒んだ場合、それはどういうことになるのかというふうに考えました。出た意見として、個性を主張するのは大切だけれども、クラスで行うものだったら自分の個性を抑えて着るべきだとか、クラスTシャツは多数決で決まることが多いのですけれども、多数決の時点でそもそも少数派を尊重すべきだったとか、多数決ということの決め方の難しさが分かりました。ですが、この中でみんなに合わせるべきということ掲げてしまうと、ふだんの生活の中でも周りに迎合しなければいけないのかというような意見も上がりました。

まとめとしては、具体例をはじめとして学校には様々な個性を持った人がいる、すぐに受け入れるのは難しいかもしれないですが、受入れられなくても、否定しないことが大切なのではないか。また、この会で考えるのを止めてしまうのではなく、これからの生活でも自分の周りに生かして考えていきたいというようなことが分かりました。

以上です。

○グループディスカッション

【 グループディスカッション (50分) 】 ※別紙参照

○主催者所感

(清水副議長)

それでは、最後に、高等学校長会長及び議長から、生徒の皆さんの発表などをお聞きになっての感想をお願いしたいと思います。

まず、校長会の塩野会長からお願いをいたします。

(塩野会長)

改めて、松本深志高校の校長の塩野です。

最初のプレゼンも、ほかの先生方とも少し話したんですけれども、数年前の発表と比べると、本当に、洗練されているという言葉がいいのか分からないのですけれども、いろいろプレゼンの資料の作り方も上手だし、発表の仕方も堂に入ったものであるということで、高校生、ここ数年で、こういう前に出て何かを発表するという姿、それは本当に変わってきているなど、み

んなに何かを伝えたいなという思いが伝わってくる、そういう高校生が増えてきているなということはうれしいことです。

その後の議論を聞いていても、議員の皆様方と率直にいろいろな意見交換をして、思っていることを伝える姿、高校生、どうですか、議会に少し近くなりましたか。ちょっと近くなったなと感じた人、一生懸命広報委員長がツイッターに書いてくださいと言っていました。強制ではないですけども、少しでもこういう世の中を動かしている、恐らく県議会の皆様もよりよき社会をつくるために活動されている。ここに来ている高校生もよりよき社会をつくるために今発言をしている。そのよりよき社会は高校という現場であったりするのかもしれないですけども、方向性は一緒かなというふうに感じながら聞かせていただきました。

私は、自転車で駅まで行って、電車で学校まで1時間ちょっとかけて通っているんですけども、実はこの前の終始業式という式のところで少し映像も使いながら話したんですけども、私が通っている自転車置き場の自転車の置き方がものすごいひどいのです。ひどいということ伝えたいのが理由ではなくて、こういう映像を見たときにみんなだったらどうする？というふうに投げかけて、最後のところでグーグルフォームでアンケートを出して、みんなだったらこういう状況を見たらどうするかと聞いたら、何百人も回答してくれて、私はこうする、私はこうする、と。また、グーグルフォームの一番下のところに身近な話題で、ぜひこうなったらいいなと思うことって何かありますかという問いかけをしたら、これもさあっと書いてくれている。まだまとめ切れてないんですけども、子供たちは何かに対して提示をすると、それに対して自分だったらこうするという意見と、もうちょっとこうなれば社会がよくなるなという意見は本当に大勢が持っているなということ自分の学校では感じているところです。またそれをフィードバックする予定なんですけれども、こういうところへ来ている生徒たち、ちょっとでもよりよき社会をつくっていきたい、その思いをぜひこれからも大事にしてもらって、今、高校は探究的な学びが進んでいるのですけれども、探究的な活動の中の何が一番大事かという、今日もありました最後の提案という形で、こういうふうになったらいいという提案までいって解決へ結びつくというのが理想なんですけれども、この学びの中の一番大事なのは課題設定なんです。課題を見つけるということ、そしてそこからどこまで解決に結びつけていくか。解決することが高校生の目的ではなくて、解決に向けてどんなことができるかを考える、このプロセスが高校生にとっては一番大事で、今日はその課題発見のいい場面かなというふうに思っていて聞いていました。この課題発見をどう解決まで、何かできるかなというところを今度はちょっと考えていくとよりよき社会につながっていくのではないかと改めて聞かせていただきました。本当にありがとうございました。

議会の皆様、お世話になりました。長時間、本当にいい会だったと思います。ありがとうございます

ざいます。

(清水副議長)

ありがとうございました。

それでは、最後に、宮本議長から、全体の感想と、そして御礼のご挨拶を申し上げます。

宮本議長、お願いいたします。

(宮本議長)

それでは、まずは御礼ですね、本当にありがとうございました。

本日は限られた時間の中でありましたけれども、皆さん方の熱心なプレゼンテーションをいただきまして、また、活発な意見交換ができました。高校生の皆さん方の熱い思い、そしてまた切実な思いに触れることができました。

私のグループは文理選択ということで、若くして文系へ行くか、理系へ行くか、右へ行くか、左へ行くか、こういうことをそこで決断しなければいけないという、そういう実態、本当によく分かりました。将来のそういった選択は、そこで人生が決まるわけではないけれども、一番の皆さん方の大きな、大きな悩みであると思います。

今回のこういう交流会の企画実践から、本日のプレゼンまで、高校も違う、初めての方もいるけれども、そこで一生懸命いろいろな思いを話したということは得難い経験であり、これから必ず生きてくると思っています。

それから、これを契機に、ぜひ県議会だとか、県議会に限らず、社会の在り方、仕組み、政治に興味を持ってください。例えば、あれ、いつの間にここへ橋が架かったのかな、あれ、この道路はいつの間に舗装されたのかな、必ずお金が付きまといます。このお金って誰が決めたの、いろいろなことが政治と関わっています。社会の在り方や仕組みはまさに自分たちがこれから生きていく一つの大きな羅針盤になると思っています。

今日は私、自分が今までやってきて正しいと思っていたことがたたきのめされました。今日出た意見、それぞれのグループの意見もそうだけれども、しっかりとこれを受け止めてこれからの県議会に反映をしていきたいというふうに思っています。

皆さんの将来に大いなる可能性のあらんことを心よりご祈念申し上げまして、感謝と御礼の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。

○閉会

(清水副議長)

宮本議長、ありがとうございました。

生徒の皆さん、会場の皆様方、長時間にわたりまして熱心にご参加いただき、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会、終了したいと思います。

本日は大変にお疲れさまでした。

「『こんにちは県議会です』高校生との意見交換会」
グループディスカッション要旨

【1班】

意見交換テーマ①

「文理選択は必要なのか？」

(高校生からの意見)

- ・文理選択は必要ないと思う。進路は、文系・理系だけではなく、進路も多様化してきていると感じている。現在、海外留学を目指して勉強している。海外と日本とでは、文理の価値観が違う。高校で分かれている文系・理系の枠組みが本当に正しいのか、本当に必要なのか、普段から疑問に思っている。
- ・勉強は、大学に行くために行うものではないと思っている。一生を通して、何かを学んでいくことが大切である。受験のために勉強するのではなく、自分の人生の教養として学んでいきたいと思っている。もう少し、学校のカリキュラムを文系・理系で分けるのではなく、自分が学びたい教科を選べるようになればいいと思う。そうすれば、学びが深まると思う。
- ・文理選択をする際は、確かに大学進学のことを考えてしまうが、その先のことを大事にしたいと考える。文理選択は必要ないと思う。自分が学びたいと思う教科を自由に学びたい。
- ・企業は、大学のブランド力で人を判断すると思うので、自分は、名の知れた大学に行くことが大事であると思う。そうすると、大学が求める科目を学ぶ必要があるので、文理選択は必要である。文理を超えた学びをしたいのであれば、大学に行ってからでもできる。高校では、文理選択をして、大学が求める学びをすることが大事である。
- ・2年生の初めに、文理の選択をするが、いったん選ぶと変更することができないことが、ネックになっている。理系から文系には変更できるが、文系から理系には変更できない。
- ・社会で活躍していくうえで、自分が得意なことを一つ極めるだけでは通用していかないのではないかと思う。自分が得意とする分野を増やしていかないと、社会で活躍できる人にはなれないと思う。文系・理系と分けてしまうと得意となる分野は限られてしまう。

(議員からの意見)

- ・単に数学が得意だから理系に、歴史が好きだから文系というように、文理を選択していいの

だろうか。

- ・学問は、知識と教養を一生かけて身につけることである。未だに、自分が文系か理系なのかわからない。
- ・今は、IT関係、情報処理関係の企業が多く、そのことを考えると、理系の学科も学んでおいた方が、特な部分もあるし、幅も広がる。しかし、一方で、偏差値が高ければ文系であろうと理系であろうと、大学は選べるので、文理の枠組みを疑う時期がきていると思う。
- ・昔は、こんなに情報産業が発達していなかった。そのころの文系・理系の枠組みが必要だという固定観念があるのかもしれない。
- ・自分が学びたいと思う方を選んだ方が、勉強は長続きすると思う。今は、AとBでしっかり決められない時代になってきている。自由度が高い方がいいと思う。
- ・世の中には、いろいろな仕事があることを知っていないと、特に進学校は、早い時期に文理を選択することは難しいと思う。

意見交換テーマ②

「学校のICT活用に望むこと」

(高校生からの意見)

- ・宿題をiPadで、夜10時までに提出しなければならぬ。紙での宿題であれば、次の日に宿題を提出すればいいのに、家に帰ってまで時間の制限があり、とても窮屈に感じる。
- ・先生方と情報共有しやすかったり、授業中、直ぐ調べることができ、自分の学びも深まるので利点もある。
- ・入学時に一人1台iPadを購入し、アプリを入れて、宿題が配信される。便利だと感じる生徒もいると思うが、例えば、アプリを間違えて消してしまったり、パスワードを忘れてしまったりすることもあるので、全ての宿題をiPadで対応するのはどうなのかと思う。
- ・オンラインでの文化祭を行った。教室と体育館をオンラインでつないだが、一体感が生まれてとてもよかった。
- ・2年生の希望者に、一人1台パソコンを貸してもらえる制度ができた。パソコンがない家も多いと思うので、この制度ができて良かったと思う。iPadで文書やパワーポイントを作成することは、とても大変なので、パソコン貸与の制度が、多くの学校に普及してほしいと思う。探究活動をしたいという生徒には、iPadよりパソコン利用の方がメリットは大きい。

- ・漢字テストがネットで配信されるが、電車の待ち時間にできる。ミニテストのようなものを配信してくれると自分としては、ありがたい。
- ・各クラスにプロジェクターがあるが、そのプロジェクターが使えない先生が多い。プロジェクターが動かないことにより、授業が中断し、無駄な時間が生じてしまう。講習会などして、全ての先生が使えるようにしてほしい。または、マニュアルを作成し、生徒でも使えるようにしてほしい。
- ・iPad をもらって、便利な部分もあるが、それがないと授業に参加できないというように、絶対に必要なものとはなっていないと感じている。
- ・問題集などが iPad で配信されることが多いが、どうしても書き込みがしづらい。物理の問題を解く時に、働いている力を図示したいのにできず、とても解きづらい。なんでも iPad で配信すればいいという訳ではないと思う。
- ・タブレットでの宿題の配布には反対である。自分の高校は、全部紙媒体の宿題である。人間は書くことにより覚えると思う。紙の宿題だと、自分の勉強の記録として残るし、見返すこともできる。紙媒体の宿題の方が絶対にいいと思う。
- ・どんどん捨てていいお知らせ等は、オンライン配信でもいいが、議案書等は紙にして残した方がいい。残しておくものと捨てていいものと分けて、捨てていいものを、オンラインで配布するようにした方がいいと思う。

(議員からの意見)

- ・これ以上、世の中が便利になっていいのかと感じる。便利になると、本来持っている能力が、退化してしまうように思える。今ある IT 機器を駆使して、勉強でも遊びでも行っていくことはいいことであると思うが、どこかのレベルになった時に、果たしてこれ以上便利になっていいのかと考えることも必要である。
- ・自分の手でできる仕事と IT 機器でできる仕事がある。そういう想像力があれば、使い分けることはできると思う。全ての人が、IT 機器を使って生きていくことはできない。このことは、高校生の皆さんはとても自覚していると思った。

意見交換テーマ③

「県議会の広報について」

(高校生からの意見)

- ・広報紙は、第一印象で字が小さく難しそうに感じた。紙媒体とSNSの両方を使うことは効果的である。
- ・学校の探究活動で、議会の情報を集めたりしている。このようにホームページで情報を発信してくれると学校の活動で使えるのでありがたい。
- ・県議会の情報をSNSで発信していると、学校でも調べられるのでとても便利であると思う。
- ・情報を集めるのはホームページからなので、ホームページの充実に力をいれていった方がいい。
- ・私たちのように県議会に触れる機会がないと、広報紙等を目にすることはなかなかない。高校生はもちろん、大人も広報紙が新聞に折り込んで配られていても、見ている人は少ないのではないか。
- ・広報紙を見た時に、何を一番伝えたいのかが伝わってこない。私たちは、質問に対しての回答を知りたいのではなく、何を決めたのかが知りたい。「何を決めたのか」を一番大きく記載してもらおうとわかりやすい。
- ・細かく詳しく書くというよりは、伝えたいことを3つに絞って、記載した方が見る人は多くなると思う。
- ・絵文字があってかわいいので、それは続けてほしい。
- ・いろいろな字体を使っているなので、字体を3つに絞って重要なところだけを字体を変えればいいのか。色合いも5色に限定した方がいい。
- ・SNSを活用して広報している会社があるので、そういう会社のSNSの発信方法を参考にしてみるのがいいと思う。
- ・政治に興味のある人向けの詳しい内容の広報紙と、それほど政治に興味を持ってない人向けの端的で分かりやすい内容の広報紙の2種類を作成してはどうか。
- ・誰を対象にした広報紙なのかが分かりづらい。政治に興味のある人対象と興味のない人対象に分けないといけない。真ん中を対象とすると一番中途半端になってしまう。誰に向けての広報紙なのか決めて作っていかないと、読む人は少なくなってしまうと思う。
- ・どの世代に向けての広報紙なのかも、しっかり決めた方がいいと思う。

(議員からの意見)

- ・議会は最大公約的に考えて、特定な方だけではなく、多くの方に向けて情報を発信するとともに、多くの方のご意見をお聞きしている。そのため、不特定多数の方向けの広報誌の作成となっている。ただ、分かりづらい部分については、改善していかなくてはならない。

【2班】

意見交換テーマ①

「高校生の身だしなみ」

（高校生からの意見）

- ・須坂高校は、校則がないが、ピアスや髪を染めたりすると先生から注意される。校則がないとはいえ、やはり限度はあるし、自由である以上、メリットとデメリットをしっかりと議論していかなければいけないと思う。
- ・アルバイトのときは化粧することが求められる。

（議員からの意見）

- ・今は多様性という言葉がでてきて、地毛が明るい人もいるし、いろいろな自己表現があってもよいのかなと思う。昔みたいに全ての人が黒髪でスカートが膝上で、という時代ではなく、個性の一部として周りを害さないファッションや身なりはよいのではないかと思うが、そのあたりがあまり議論されていないのではないか。
- ・県議会の本会議のように、TPOによっては、自分も見られているし、相手からも求められているということも考えると、自分の自己主張だけでいいかというときもあるということはあると思う。

意見交換テーマ②

「学校のICT活用に望むこと」

（高校生からの意見）

- ・学校からタブレットが与えられ、学校で平均1時間くらい使っているが、先生によって活用状況が異なる。ワーク帳の課題を、タブレットで写真を撮ってそれを提出させる先生もいれば、ワーク帳自体を提出させる先生もいる。
- ・中には授業中ずっとSNSをやっているような生徒もいる。
- ・タブレットのセキュリティの関係で、先生たちが作成してホームページにアップしている資料が閲覧できないということがあった。そういった部分はもう少し調整して欲しい。
- ・軽井沢高校はタブレットの使い方を授業で1回だけやり、それで終わってしまった。学校に

よって使い方が様々だと感じた。

- ・プリントなどはなくしてしまうことが多いため、配信してもらえればありがたい。
- ・今までは紙で配っていたものがデータになり、探すのが楽になった部分もある。

(議員からの意見)

- ・課題を写真撮影して送信ということを知って、もう一步踏み込んだ使い方をして欲しいと思った。まだまだアナログ的である。
- ・今後ますます可能性が広がっていくツールであると思う。まだこれからではあると思うが、効率化すればお互いのコミュニケーションや、例えば風邪をひいて学校を休んでもオンラインで授業を受けるという選択が広がるとか、不登校の子が授業を聞いて学びだけしっかりと参加することができるとか、何でもできるようなツールになってくるので、使っている高校生の皆さんから、こうすればこういうことができるといったことを提案してもらいたい。このテーマは先生からというより高校生からの提案の方が絶対実になると思う。
- ・オンラインの活用など、学校の中にICTを入れることによって学校生活をどんどん効率化して行ってほしい。生徒個人の機器操作スキルの向上というよりは学校生活の効率化を進めてほしい。特に不満もないから、投票行動につながらないのかなと思う部分もあるが、そこはどうか。
- ・少し前に小学生ランドセルの重さが問題になっているということをニュースで見た。成長期に教科書を毎日持って登下校することでいろいろな影響があるということだった。タブレットの中に教科書が全部入っていれば教科書の忘れ物もなくなるし、技術的には簡単なことだと思う。そういうことも高校生から提案してくれれば面白いと思う。
- ・今の高校生はICT化の過渡期にあり、皆さんの提案が時代を変えていくことにつながっていく。

意見交換テーマ③

「県議会の広報について」

(高校生からの意見)

- ・県議会でツイッターをやっているもなかなか検索してまでは見ない。

(議員からの意見)

- ・生徒会と一緒に、どうすれば皆さんの生活がよくなるかといったことを議員がまとめて代弁して、どういったことに予算を使うかということを決めるのが議会であり、どういった部分が足りないのかと言ったことを日々考えるのが議会の活動である。高校生に関するテーマもたくさんあるので、ぜひツイッター等、見てもらいたいと思う。高校生がこんなことを望んでいるということを書き込んでもらってもいい。
- ・議員にとっては、遠い存在だと思われるのが少し寂しい。
- ・今高校生に議会を紹介する動画を作ってもらっている。来年の2月くらいに完成予定でYouTubeにアップする予定。高校生の目線で作るものなのでぜひ見てほしい。

【3班】

意見交換テーマ①

「コロナ禍の文化祭」

(高校生からの意見)

- ・昨年度、中学3年生のときに文化祭の実行委員長を担った。コロナの影響を受け、1、2年生の時のような催しができなくなってしまったが、地域、企業の方々に協賛金を募って、花火を打ち上げる、という工夫をした。そういった工夫を他校の方に伝え、また、他校の文化祭の様子を聞いて自分の高校の文化祭もより楽しくできたらと思い、7月からこのテーマで話し合いをしてきた。
- ・今年度文化祭の実行副委員長になった。コロナ禍で何を楽しむか（楽しませるか）、感染症対策はどうしてきたか、他校の取組みを参考にして、来年はもっと楽しい文化祭を、と思い、参加している。自分の高校は文化部も少なく、文化祭の内容は模擬店がメイン。どうしたら模擬店ができるか、議員の意見を伺いたい。
- ・中学生の頃から地域の高校の文化祭を訪ねており、高校の文化祭で模擬店を出すのが楽しみだった。高校生となり行われた文化祭ではコロナ禍で模擬店ができず、とても残念だった。しかし、自分の学校は、FM まつもとで文化祭を放送したり、ICTを活用してチケットをオンラインで販売したりと工夫があり、楽しい文化祭となった。自校の取組みを他校の皆さんにも紹介したいと思い、参加した。7月から話し合いを続けているが、他校の取組みが参考になることも多かった。

(議員からの意見)

- ・先のプレゼンテーションにおいて、文化祭をZ o o mで配信したところ接続が悪く映像や音が途切れた、ということだったが、I C T環境が不十分だったのは残念に思う。
- ・制限されて文化祭の内容を縮小するだけでなく、ラジオ放送をしたりZ o o mを利用したりと工夫を凝らしているのが、たくましいと思った。

意見交換テーマ②

「学校のI C T活用に望むこと」

(高校生からの意見)

- ・現在、一人1台タブレットを支給されて授業を受けている。タブレットのない中学生の頃は、授業で黒板を写すだけで眠くなったが、高校でタブレットを活用すると、授業参加の度合いが深くなり、授業に集中できる。しかし、使い方(プレゼン資料の作成方法など)が分からないという友達もいる。使い方をしっかり教えてもらう必要があると感じている。
 - ・コロナ禍でリモート授業でもタブレットを使用することとなったが、部活動にも活用できる。試合等、観戦に人数制限があったが、リモート配信してもらい、家族で観戦することができた。I C Tの活用が盛んになり、使える場面が増えればよいと思う。
 - ・自分の地域は、中学校でタブレットが配布され活用していた。しかし、高校の授業ではタブレットを使わなくなった。タブレットは総合的な学習や調べものでネット検索をする際に使用するだけ。先生が自身の担当教科でのタブレット活用方法を分かっていないことが問題である。タブレットを活用した授業方法を、先生が学ぶ必要があるのではないか。
 - ・自校はI C T化が発達している学校であり、クラスの半数以上がiPadで授業のノートをとっている。プレゼン資料もみんな作成できる。タイピング練習にも力をいれている。提出物も電子化しており、ノートを写真で撮って送信している。授業スライドもグーグルスライドで共有でき、帰宅後見ることができるので、復習もしやすい。先生が課題を職員室からメールで送信してくれるので、先生も教室に来る手間が省けているようだ。
- ただ、I C T活用しきれていない先生もいる。先生に要望を出したが、出来ない、と言われたこともある。先生によって授業の受け方を変えなければならないのは、生徒としては大変である。

(議員からの意見)

- ・タブレットを活用した授業について、坂城高校の様子を視察したことがある。1年生はタブレットを活用した授業、3年生はタブレットを活用しない昔のままの授業であった。1年生はタブレット活用によって自身の学習の理解度を確かめることができ、分からないところまで戻って勉強を進めることができていた。一方3年生は、授業を理解できない生徒が居眠りしている姿もあった。タブレットによる授業の有効性を感じた。ICT活用について、高校生のご意見を伺いたい。
- ・率直な意見を聞いて良かった。先生の力量が、生徒の皆さんのICT活用の度合いを左右するのだと感じた。先生のICTの活用に関する教育も必要。
- ・議会でも今後タブレット端末を利用することとなるが、自身も不安である。今はまだ過渡期で、先進校もあり活用しきれていない学校もあるとのことだが、これから自身の努力、学校の努力、経験の積み上げで、みんなで底上げをしていくということになるのだと思う。
- ・県議会でも来年から、議員がタブレットを使用して会議等が行われる予定。

意見交換テーマ③

「学校での個性・多様性の出し方、受け入れ方」

(高校生からの意見)

- ・自校では、校則で髪染め、ピアス禁止などあるが、校則チェックはゆるい。自身としては、髪を染めたりピアスをしたりすると自分が大きく変わる気がして怖いとの思いがある。
- ・自校は、生徒・教師・地域の方での会議があり、そこで変わった校則もある。
- ・制服が指定されているが、冬は寒いので私服登校を可とした。校則を変えていける雰囲気がある。自身としては、校則を破ってまで髪を染めたりピアスをしたりしようとは思わない。
- ・自校は、私服登校であり校則があるのかないのか分からない。校則がない部分は、自分で責任をもって考えなければならないので、やや大変と感じる。(制服がないため、正式な場に何を着ていけばよいか等。)

(議員からの意見)

- ・地域の方も交えた会議で校則を変えていける、そういう仕組みがあるのはとても良いと感じる。
- ・長野県も北信と南信は文化が違う。また、現在は世界的に移民を受け入れるということが重

要視されており、異文化交流も増えている。異文化を受け入れることも個性を受け入れることも同じで大切。個性や多様性を自分で考えていってほしい。

- ・ いろんな表現、生き方を否定せずについてほしい。生きづらい人、苦しむ人がいてはいけない。「自分らしく」を大切にしたい。高校も「自分らしく」を大事にできるような校風になればいい。

【4班】

意見交換テーマ①

「コロナ禍での国際交流をより良くする方法を考えよう！」

(高校生からの意見)

- ・ オンライン交流は、現地に行くより費用が抑えられる一方で、現地に行くことができない交流にお金を出したくないという人もいる。
- ・ 英語での会話の際、何とか伝えようとボディランゲージを使うことも多いが、オンラインだとあまりそういったものが使えず、思ったことを言葉だけで伝えることが難しいと感じる。
- ・ 相手の文化的背景や行動の背景にある考えが分からないと言動や行動が理解しづらい。対面だとその現地で一緒に活動しながら、そういった背景が分かってくるため、コミュニケーションがしやすくなる。その一方で、オンラインでも交流は続けるべきで、その期間があるほうが会えた時の喜びは大きい。
- ・ 文化の違いが差別等につながっていると思っているため、交流の対象は同世代だけに限らず社会人や、様々な国の人と関わる機会がもっとあると、海外に対する恐怖がなくなっていくと思う。
- ・ 文化の理解といった点で、オンラインでパワーポイント等を使って発表することがあるが、パワーポイントのみだと平面的な表現しかできない。自分の例だが、「納豆」を紹介する際、まずはパワーポイントを使って歴史等を伝えるのだが、そのあとに実際に納豆を混ぜる様子を見せたり、アレンジをしている様子を見せたりすることで、五感で感じられるような、立体的な表現になって伝わりやすくなるのではないかと考えた。
- ・ 会話のツールとして、SNSをよく使っている。メッセージのやりとりはもちろん、インスタグラムだとストーリーが上がっているので、それを見てどんなことをしているのかが分か

る。それも既に交流かもしれない。

- ・身近な外国人として、ALTの先生がいるのだが、授業のときなど関わる機会が限られている。国際交流の考え方を広げるためにも、もっと関わる機会が欲しい。1学校に1人というのも、少ないと感じる。
- ・身近な外国人として、日本に来ている留学生もいる。今の状況で留学生も同じように接触の機会が減っているところだと思うが、普通にしゃべったりする相手として、留学生もありなのではないか。外国にいる外国人を意識しがちだけれども、留学生との交流も重要ではないか。

(議員からの意見)

- ・上田高校が取り組んでいるカンボジアでの井戸プロジェクトについて、井戸を掘ったりすることは実際に現地に行かないとできないことだが、だからといって交流をやめてしまうのではなく、オンラインによる交流を続けて、実際に現地に行くことができるようになるまでの準備期間と捉えるべき。
- ・国際交流は、やはり対面で行うことがよい経験になると思う。ただ、オンラインでの交流のメリットもあるため、補完的な位置づけでオンライン交流も続けてほしい。
- ・オンラインの場合、時間や場所の制限がないため、より自由に交流したい人を選ぶことができる。
- ・県の事業で、留学等に係る費用を助成していたが、近年は留学自体ができていない。その費用をオンライン交流に係る費用に回すことができるかもしれない。
- ・オンライン交流を準備期間として捉えて、その交流があった方が対面の交流をより楽しめるかもしれない。
- ・お互いの文化や背景に興味を持っている場合も多い。この期間で相手の文化等だけではなく自分の文化等も見直して、交流をよりよくすることができる期間かもしれない。
- ・どう伝えるのがいいのか、何を海外の人が知りたいのか、考え直すいい機会。

意見交換テーマ②

「政治参加への意識」

(高校生からの意見)

- ・投票について、「行きたい」か「行きたくない」というよりも、行かないと怖いと感じる。

なぜかという、自分が知らないところで決まったことに従っていかなくてはならなくなってしまうから。

- ・例えば国際交流のことなど、自分が興味関心を持っていることに、自分の意見を少しでも反映させたいと思う。
- ・自分の声や力では社会は変えられないと思っているが、自分の意見はしっかり持っている人は多い。
- ・県や市など地方自治体の政治への参加となると少しハードルが高いが、学校にある生徒会など、学校という小さな社会を運営していく組織への参加や経験をすべきだと考える。
- ・日本はみんなの意見に同調することが多い。自分の考えで主体的に行動して、何かを変えることの経験が大切。
- ・駅にピアノを置きたいという思いから、学校の活動として、自分で市役所に行って話を聞いたり、自分で駅でのライブ活動をしたりしたことがある。政治と直接関わりがあるかはわからないが、身近な地域を変える取組をすることで、政治への関心は持てるのではないか。
- ・こうしてほしいという思いは持っているが、世代の違いなどから、諦めている部分もある。自分が大人になって、同世代の政治家が出て来てから、伝えていけばいいかと思ってしまう。
- ・コロナ禍になって、その対策とかを知るためにニュースや政治の場で話されることに対して関心を持つようになった。
- ・コロナ禍になったことで、給付金など、私たちのために政治がやってくれることを実感するようになった。

(議員からの意見)

- ・将来こんな状況になったら政治に参加するということを聞いたが、今の学校での生徒会など、そういったものの先に政治があると思う。政治も多数決。自分と同じような考えを持つ人を見つけていってほしい。

【5班】

意見交換テーマ①

「自分の学校をより良くするために、自分の高校を見つめ直そう！」

○校則について

(高校生からの意見)

- ・自分の高校は校則がとても厳しい。
- ・中学3年生の時、高校見学や高校のパンフレット等から、校則についてはたくさん情報が入ってきている。
- ・生徒会で校則を変えようとしたが、通らなかつたことがある。

(議員からの意見)

- ・校則を理解して、高校を選んできているのか。校則の厳しさや緩さは、高校を選ぶ基準となるのか。校則はオープンになっているのか。校則を100%理解して、校則ありきで高校に入ってきている人はどれだけいるのかと逆に疑問に思ってしまう。
- ・我々の時代よりも体験入学などしっかりやっており、高校の情報を知り得る感覚は、我々の感覚よりも大きいと思う。
- ・議会でも条例と言って、県民の皆さんに守っていただきたいルールや、議会の運営についても長年の積み重ねの中で、合議制と言って話し合いをもって決めている。校則を変えたいと言った場合、手続きはあるのか。それとも、校則は絶対であって、変える余地はないのか。
- ・校則のテーマによっては、皆さんで熟議をしても結果がダメだということもあるかもしれないが、校則の変更可能な部分、不可能な部分の基準は示されているのか。そうでなければ、皆さんでいくら議論しても通らず、徒労に終わってしまう。学校側は、校則について、例えば変更不可能な部分があれば、しっかり理由を示し、生徒側も納得した上で議論していくべき。
- ・社会の中にもルールがあり、高校は、社会へ出る前の準備をしているといった話を聞いたことがあるか。高校の校則を破ることが当たり前という感覚は私たちにはない。ルールを破って当たり前というのは、ルールではない。そういう感覚がよくわからない。
- ・高校の印象がよくないと、就職する際に不利になることから、しっかりやろうとし、校則を定めた経過があることを見聞きしたことがある。就職が多い学校、進学が多い学校によっても違うだろうが、ぜひ学校の校則ができた当時のことを調べて、なぜこのような校則ができたかということを見てほしいと思う。
- ・我々もルールに合わせて会議などやっているが、時代により、ルールが合わなければ、その部分を変えようと議論してやっており、変えていく手段を持っている。なかなか難しいが

…。ルールを破るより、変えていこうというふうによりエネルギーを使えば、それこそ主体性を育むのではないかなと思う。

○高校の特色について

(高校生からの意見)

- ・オンライン交流会の中で、いくつか意見がでたが、高校の特色とは何か。県ヶ丘高校では探究科があり、他校でも農業科等があり、県内には様々な科がある高校があるが、その中で、中信地区、松本地区の高校は倍率が高く人気がある。地方の高校では人数が少なかったり、人数によって差がある。オンライン交流会をする中で、生徒の募集に困っている高校があり、生徒の人数配分が高校によって差が出ていることについて、議会にお聞きしたい。
- ・中学の時に高校見学に行き、それが一番高校を知る良い機会となった。その際に、積極的なアピールや楽しそうだなと思える高校に行きたいと思った。自校は文化祭が盛り上がる。それもあり、自校を選んだ。オンライン交流会の意見であったのは、たくさん生徒が集まる高校は、特別な魅力があるのだということ。生徒が集らない高校があれば、新しい取組を始めるといいのではと思う。それは県側とも協力しないとできないことだと思う。
- ・高校見学に行ったら、「文武両道」という点がよかった。実際に、部活に入っている人のほうが多いにもかかわらず、希望する大学に行くという、勉強にも熱心な姿がいいなと思い、受験した。
- ・オンライン交流会で、中信地区ではない高校にも特色があることがわかった。例えば、先生たちとの距離が近いなど、いいところがたくさんあった。そのような中、なぜ、中信地区に生徒が集まってしまうのかと考えたときに、交通の面や自宅から長距離にならない範囲というのも学校を選択する基準になったので、そう考えると、定員が少ない高校というのは、その地域にそもそも人が少ないのだと思う。高校の魅力を高めることに加え、その地域の魅力も高めていくことも大切なのかなと思う。
- ・普通科の高校は、将来が決まっていなかった人が入る高校だと思っている。工業高校や高専などは、将来やりたいことが決まっている人が行くところだと思う。

(議員からの意見)

- ・高校を選択する自由がある中で、今の募集人員は、長年の積み重ねによって、実態に即した定数になっていると思っている。ただ、地元の人からすると若い人がいると活気があるから、その地域の高校にたくさん生徒が来てほしいという思いは当然持っていると思う。生徒がたくさんいたほうが多様な個性があって、人の成長度合いも当然高まってくると思う

ので、多ければ多い方がいいとは思いますが、現実的には、生徒の入学希望が多い学校の方に先生を回した方が、より効率的になってよいと思う。それが実態に即していることなのかなと思う。

- 人気が少ない学校でも人気が高まってきて、例えば倍率が1.5倍とか、それくらいの状況が続いていけば、定数を増やそうという話になってくると思う。
- 学校の定数は、希望者が多ければ増えるという余地はあるが、少ないと益々減らされてしまう。上伊那地区は、中信地区や飯田の方に進学する生徒が多く、地元の中学校の卒業生が上伊那地域内の高校に進学する率が一番低いところ。
- 将来的にこういう仕事がしたい、こういう人間になりたい、こういう環境に身を置きたいということを意識して、高校を選んだのか。例えば、工業系の高校に行ったからと言って、それが正しいかわからないし、皆さん迷いながらやっていると思う。迷いながらだとしても、今の皆さんは、主体的に考えようとしており、僕らの時代よりもすごいなと思っている。ぜひ、探究的に自分たちで何をやりたいのか考え、仕事にも結びつけていってほしいと思う。
- 過疎地域は今までの話のとおりの部分もあるが、一方で、部活が強いところや大学進学率など、尖ったニーズがないというのも事実。人数が少ないから、尖ったものを用意できないといった面もあるのかなと思う。専門的な科があるのはうらやましいなと思うところもある。

意見交換テーマ②

「政治参加への意識」

(高校生からの意見)

- 18歳の選挙権、学校の先生も選挙に行くようにと言われるが、時期によっては、受験勉強と重なり、選挙へ行けない人が多いのではないかとと思っている。土曜日にも授業があり、毎月模試もあるなど、高校3年生は忙しそう。もっと簡単に選挙へ行ける仕組みがあればいいと思う。
- 若い世代の政治参加への意識は、自分自身も含め周りを見ても、低いと思う。その理由としては、内容が難しいことと身近なものではないということ。高校生にとって政治は遠い存在。そこが政治参加への若者の意識が低いという原因なのかなと思う。ただ、コロナ禍により修学旅行がなくなると、どういう政策をしているのかなとニュースを見るようになって

たので、やはり興味があることは、それなりに政治参加できていると思うが、意識としては低いかと思う。

- すごく身近なところで、学校のトイレは本当に汚い。
- 自校はトイレがきれいになっているが、それが県議会議員の皆さんが何かしてくれたという認識がない。それもあるので、関心がないというのもある。
- 駅や人通りの多い場所で選挙活動をしている人がいるが、議員が何をしているのかが明確ではないので、その場所を通っても聞く興味がないというのが現状。今日の話し合いで、政治は身近だということに気がついたので、議員さんが言っている政策などを聞いてみたいと思った。

(議員からの意見)

- ネット投票などがあればいい。
- 政治に対し、関心をもってもらえるようなネタがあればいいが、コロナの影響で修学旅行に行けなくなり、その対策としてどのような政策があるのかを調べていくと難しいと思ったりすることから、少し踏み込めずにいるところがあるかもしれないと思う。しかし、実際、大人が政府の政策を100%理解しているかということそうではない。修学旅行に行けるにはどうしたらいいかということを考えてくれる政党が良いというふうにつながっていただければと思う。

「子供の政治に対する意識が低い」ということは、大人が勝手に言っているだけであって、大人も選挙に行かない人はたくさんおり、それをことさらに若者の政治参加が少ないと言っていることに違和感がある。

政治への関心を一つでも二つでも持ち、それに対して考えることが第一歩としていいのかなと思う。若者が悪いわけではない。若者の実情を知らないで、若者は政治意識が低い低いと言っている大人が悪いと思う。

- 皆さんが実は気がついていないだけで、政治は生活そのもの。例えば、お小遣いを増やしてほしいといったことなど。景気がよくなれば、給料が増えて、お小遣いも増やそうかということにつながり、社会と密着している。

まさに、お金の入りがあって、それを有効に使う内容を考え、最終的に納得する結論を導き出すのが、議会や政治。政治がもっとしっかりしてコロナを抑え込んでいけば、修学旅行に行けたのにというように自分たちに直結している。トイレや校舎の整備など、教育にもっと予算をつけてほしいというのも政治。実はものすごく身近にあるもの。

- 世代間の格差もある。高齢層の方が投票率は高い。投票に行った人は当然政治に対し声が大

きくなる。高齢者がたくさん投票に行けば、高齢者中心の政策になる。ただ、その分のしわ寄せは若い皆さんに行きがちになってしまう。ということもあり、投票に行かないということはマイナス。若い人たちにとって良い政策をしたいと考えている人はいるので、選挙公報やインターネットを見てほしい。

- ・特に不満もないから、投票行動につながらないのかなと思う部分もあるが、そこはどうか。
- ・学校のトイレを全てきれいにする！という政治家がいたら、そういう人に投票したいと考える、つまり政治はそういうこと。自分たちのことを考えてくれる人に投票しようと思うので、それが大きいか小さいかの差。身近なところからそういうことを考えることが大事。
- ・我々も自分の子供がトイレが汚いなど、切々と訴えてきたら、気持ちもわかるが、なかなか若い世代の皆さんと接点がないので、現状をよく知り得なかった。それは反省すべきところである。
- ・議会で高校視察へ行くが、そこまで皆さんの気持ちがわからない。実際にその校舎やトイレを使っている人たちの感覚や話を聞いてみることは大事だと思った。
- ・要望の声を寄せてくれたら、なんとか叶えたいと思う中、全体の予算や財源は限られており、すぐに実現できるとは言いがたいが、まずはそういった声をあげていただく。それが大事だと思う。そういう声を勇気をもって発言したことが、きっかけとなり、形になったという一つの成功体験のようなものがあれば、もっと積極的に発信してよいのだというムードが若い人たちにも広がってくるだろうし、そういう環境を我々も整えていきたい。
- ・トイレについては、県の予算で改修。学校が要望をあげて、県でとりまとめ、計画を立て、概算費用を出し、予算要望し、予算がついて、執行。議員としては、議員が言ったから、その計画が前倒しされることもあるかもしれないし、ないかもしれないという感じの関わり方。しかし、県の方でこのような内容で予算をつけてほしいということに対し、議会側がダメというとその予算は通らなくなってしまうので、最終的な門番みたいなことを議員がやっている。計画や予算案自体をつくるのは県という二元代表のような制度になっているが、議員の方はあくまでチェックする立場。学校からの要望にあわせ、議員も県側に要望するというのが現状。議員がトイレ改修をやったかというところとは言いえない仕組み。議員は皆さんに対し、あれをやった、これをやったと言えないので、難しい立場ではあるが、政治に関心をもってほしい。
- ・要望などは言うてはいけけないのではなく、政治家は皆さんのそういう声を形にしていくことが一つの仕事である。なので、トイレの改修についても地元の議員に言うと、地元の議員もがんばるはず。そんな部分でつながりは間違いなくあるので、関心をもってもらいたい。自分たちの考えと違うことがあったら、違いがわかることだけでもいいのかなと思う。

「私だったら」と、そんな視点で見てもらえれば面白いと思う。

- ・個性をお互い尊重し合い、高め合っていくためには、自分の考えをしっかりと述べることが大事。皆さん、遠慮し合って発言しにくい空気も状況によってはあるかもしれないが、自分で動いたり、発言したり、要望を出してみる大切だと思う。

【6班】

意見交換テーマ①

「学校での個性・多様性の出し方、受け入れ方」

○社会のルールと個性とのバランス

（高校生からの意見）

- ・強く出し過ぎると支障があるので、考えた上で出す。
- ・個性があることで社会が豊かになることもある。バランスは難しいが、個性がないときびしい。
- ・個性を出さないと決まりやすくなるが、すぐにまとまる話合いから良いものが生まれるか。個性をもって話合いに参加することが必要ではないかと思う。

（議員からの意見）

- ・発表の中で、「個性とは?」「多様性とは?」について考察されていたが、言語や髪の色といった外面的なものから、考え方や習慣といった内面的なものもあり、どの視点から見かによっても変わってくる。正解のない問題だと思った。
- ・自分と違う人を認める難しさ、長所・短所は個性ではないこと、周りに同調する中で自分を見失わないようにする難しさ、といった大事な気づきに言及されており、刺激を受けた。
- ・難しいことだが、周りの人にどう見られるかを考えながら（客観的な視点も意識しながら）一定の範囲の中で個性を出していくことが大事だと思う。
- ・学生時代の部活を例に出すと、私が所属していた部は、上下関係や伝統があり、1年次は全て従っていたが、学年が上がるにつれて、受け入れがたい部分が出てきて、どうするべきか友人と話し合うようになった。受け入れられるかどうかは個人の感覚による部分も大きいので、自分の違和感をどこまで他者と共有できるか、どこまで変えられるのかはわからないが、

口に出して他者に伝えてみるのが重要だと学んだ。

○服装などの外見で個性を表現することについて

(高校生からの意見)

- ・母校では、髪を染めたりピアスを付けたりすることについて、受け入れ難い雰囲気があるが、個性の一つとして尊重し、受け入れるべきだと思う。
- ・自分の好みと、友達からどう見られるかの両方を考えて選んでいる。
- ・どちらかというと、自分の好みで選んでいる。
- ・なぜメイクをして登校してはいけないのか疑問に感じる。

(議員からの意見)

- ・今まで自分が着たことのない服装にチャレンジしてみたい気持ちはあるが、いつも周りから想定されている自分のイメージに合わせた服装に落ち着いてしまう。
- ・今はスーツなのであまり考えることはないが、学生時代は自分の好みで服装を選んでいたと思う。
- ・メイクも社会に出るための練習の機会。
- ・例えば、香水は不快に思う方もいると思う。
- ・周りに良い印象を持ってもらいたいという動機は大事かと思う。自分で判断して加減する。

○個性と少数意見について

(生徒からの意見)

- ・個性が大事とはいうものの、周りから浮くのは怖い。
- ・結論が決まれば従うのだから、議論の際は個性を出していった方が良い。
- ・少数意見を持つ人の話を、理由を含めてよく聞くことが大事だと思う。

(議員からの意見)

- ・集団で物事を決める際に、賛成・反対がある中で議論して、「(この結論で) いいよね (仕方ないよね)」とみんなが納得するまでが大変。
- ・少数者は話を聞いてもらう機会がないこともある。主張を十分に聞くというのはとても大事。
- ・少数者の意見を丁寧に聞くことは大事なことである一方、スピーディーに物事を決めなければいけないときもあり、そのような場合に多数決は早く決められるという利点がある。
- ・決めることと、少数者の意見を組み入れるための調整のバランスが難しい。

○多様性の受け入れ方

(生徒からの意見)

- ・否定をやめることがまず必要だと思う。受け入れられない意見であっても、発信する機会を保障することが大事。否定すると、委縮して発信自体がされなくなってしまう。
- ・なぜ違うのか？を知ることが大事だと思う。
- ・受け入れるのは難しくても、受け止めることはできる。

(議員からの意見)

- ・以前に比べて、多様性を知る機会は増えている。アンテナをはって、いろんな人と積極的に接することが大事だと思う。

意見交換テーマ②

「政治参加への意識」

(高校生からの意見)

- ・候補者の街頭演説を全部聞くのは面倒。県 HP 等で配信されていれば時間・場所問わず視聴できる。
- ・政治に関する情報が身近ではなく、自分から情報に触れようとしなければならないので、政治参加への意識が薄いのではないかと思う。
- ・候補者の演説を全て聞いている時間はない。候補者ごとの主張を一覧でまとめたページがあればいいと思う。
- ・暮らしと政治に距離がある。暮らしと政治の接点が見えれば、政治参加は進むと思う。そのためには発信に工夫が必要。
- ・我々の世代にとって、YouTube や Twitter は娯楽のためのツールであり、情報収集の手段として捉えている人は少ないと思う。

(議員からの意見)

- ・政情が不安定な国は若者の投票率が高いと言われていることからすると、日本の若者の投票率が低いことは平和の証なのかもしれない。ただ、政治家とすれば、投票率が高い層に目が向くので、若者の投票率が低いと、若者向けの政策が充実しないことになってしまう。いろ

いろな要素はあるけれども、できれば若い人たちにも投票に行ってもらって、政治に関心を持ってもらえればいいなと思う。